

## 7月メディア総局長定例記者会見要旨

7月10日に投票が行われた第26回参議院選挙については、NHKとして、各党の政策や争点など視聴者の皆様の判断材料となる情報を公平・公正に提供するとともに、民主主義の根幹である選挙への理解を深めていただくための新たなサービスに取り組んだ。「みんなの選挙」プロジェクトでは、障害があつてこれまで投票に行けなかった方、また行きづらかった方に役立つ情報を発信した。また、候補者との考え方の一致度を測ることができる「ボートマッチ」というインターネット上のサービスも実施し、多くのご利用をいただいた。投票日の2日前には、安倍元総理大臣が街頭演説中に銃で撃たれて亡くなるという事件が起きた。発生以降、正確・迅速な報道に徹するとともに、公共メディアとして、自由で公正な選挙が損なわれることがないように一連の放送にあたった。

### (1) いま、戦争と平和を考える (林メディア総局長)

ここからは、これからお届けする番組やサービスをご紹介します。ロシアによるウクライナへの軍事侵攻が続くことしの夏、戦争と平和について考える番組が揃った。

#### 【Nスペ「戦火の放送局～ウクライナ公共放送の戦い～(仮)」】

まずご紹介するのは、NHKスペシャル「戦火の放送局～ウクライナ公共放送の闘い～」。ウクライナの公共放送「スプーリネ」が5年前に開局して以来、NHKは技術支援やネットワーク構築のサポートを行ってきた。その縁で独占取材を許され、ニュースや番組でその過酷な現実をお伝えしてきた。5か月にわたる取材で見えてきたのは、ロシア側が仕掛ける情報戦の実態、ウクライナ政府による報道規制、そして、同僚や家族の命が危険にさらされる中、何をどう報じていくか苦悩する職員たちの姿だ。母国が戦地となったとき、メディアは戦争をどう伝えるのか。戦時下の放送局、その現実と葛藤をお伝えする。

#### 【Nスペ「新・ドキュメント太平洋戦争 第2回」】

続いて、終戦の日を前に2夜連続で放送するNHKスペシャルのシリーズ「新・ドキュメント太平洋戦争」。当時の人々が綴った日記や手記、いわゆる“エゴ・ドキュメント”を基に、個人の視点から戦争の時代を体験するこのシリーズ。去年12月の「1941 開戦」に続く第2弾は、「1942 大日本帝国の分岐点」だ。前後編のうち前編では、開戦直後の連戦連勝から一転、6月を機に戦況が悪化していく中で、国民が正しい情報から遠ざけられていく過程を見ていく。また兵士の貴重な手記などをもとに、ミッドウェー海戦の凄惨な戦場を克明に描く。後編では、東南アジア各地で日本が厳しい現実に直面する様を見つめる。NHKは、各国で貴重なエゴ・ドキュメントを収集した。開戦当初、アジアの人たちの言葉には日本を歓迎する記述もあったが、やがて日本に対する疑念や不満を綴るようになる。勝利と敗北、2つの局面が交錯した1942年を通して、「戦争」が私たちに何をもたらすか考える。

#### 【NHK戦争を伝えるミュージアム】

さらに、放送に合わせて、来月からNHKアーカイブスのウェブサイトの中に「NHK戦争を伝えるミュージアム」という特設ページを開設する。太平洋戦争についての記事、過去に放送した戦争関連の番組の一部、さらに戦争を体験した方の証言の動画など、戦争関連の様々なコンテンツをご覧いただけるサイトだ。今回は第1弾となる。この後、終戦80年にあたる2025年に向けて内容を充実させていく。若い世代、番組を見てもっと知りたいと感じた方々に、ぜひ活用して頂きたいと考えている。

#### 【特集ドラマ『アイドル』】

続いては、戦争に関連した特集ドラマ「アイドル」。テーマは「戦時下のエンターテインメント」。昭和初期から終戦間際まで、戦時下の日本において、劇場のステージに立ち続けたアイドルの青春を描いた物語で、当時実在した登場人物や劇場をベースとしたオリジナルドラマだ。いつの時代も若者を熱狂させ、ときめかせる“アイドル”という存在。番組の制作統括は「戦争の記憶が年々遠ざかっている。今、ウクライナ侵攻による危機が続く今、剣よりも強くあろうとするエンターテインメントの力を、楽しく、そして深く見て頂ければ幸いです」と話している。この番組が、若い世代の皆さんが平和の尊さを考えるきっかけとなればと考えている。

(詳細は報道資料を参照)

## (2) 夏の特集編成から (熊埜御堂メディア戦略本部長)

### 【ライブ・エール ～明日への一歩～】

夏の特集番組についてお伝えしたい。1つ目は、今年で3回目を迎える「ライブ・エール」について。今回は初めてNHKホールにお客さんを招いての開催となる。これまでは、「今こそ音楽でエールを」をテーマに、コロナ禍で奮闘する人たちを、音楽を通して応援してきた。今回は、新たなテーマとして「明日への一歩」を掲げる。生きる喜びや希望を感じられる楽曲の数々を通して、明日への一歩を勇気を持って踏み出そうという人たちの背中を後押ししたい、そんな思いを込めた。また先日、ご出演いただくアーティストの皆さんを発表したが、新たに、さだまさしさんにご出演いただくことになった。さださんの故郷・長崎の野外ステージから同じ被爆地の広島に向けて、「広島空」という楽曲を歌っていただく。今の時代に、平和への祈りを届けて頂けたらと願っている。

### 【BSプレミアムと夏の中継特番】

続いて、BSプレミアムと夏の中継特番についてご紹介する。この夏、新型コロナウイルスの影響で休止が続いた各地の伝統行事やお祭りが復活する。BSプレミアムに加え、BS4K・8Kの超高精細画像と高音質で、臨場感たっぷりにお楽しみいただく。まず夏の風物詩、花火大会。新潟・長岡の大花火では、今年は、ウクライナの平和やコロナ終息の願いも込めて花火が打ち上げられる予定だ。また、秋田・大曲からは、日本最高峰といわれる全国花火競技大会を、3時間丸ごと生中継する。「京都五山送り火」は、過去2年規模を縮小していたが、今年は大文字をはじめ5つの形を完全点火する予定で、夏の夜空に亡き人の魂を送る。このほか、夜の動物園でのパンダやサファリの動物たちの様子を中継でお送りする。普段見られない動物たちの姿に加えて、パンダやペンギンなどの赤ちゃんが誕生したときの貴重な映像もお届けする。ご家族で楽しんでいただければと思っている。それぞれの中継の実施にあたっては、新型コロナの感染が再拡大しているため、主催者の判断なども踏まえながら適切に対応していきたいと考えている。

(詳細は報道資料を参照)

## (3) 視聴者に支えられた長寿番組SP企画 (熊埜御堂メディア戦略本部長)

続いては、視聴者の皆様に支えられ、毎回多くの反響をいただいている番組の特別企画をご紹介したい。『ドキュメント72時間』。この番組は、レギュラー放送開始から10年目を迎えた。長年見て頂いていることに感謝して、これまでに放送した320本以上の番組の中から、視聴者の皆さんの投票で選ばれた10作品をランキング形式で一挙アンコール放送する。6月におよそ3週間、投票期間があったが、その中でいただいたのは1万2千を超える投票で、番組スタッフも驚いているところだ。取り上げた場所や、出演していただいた方々のその後も追加取材し、「72時間」が歩んだ10年をゲストとともに振り返る。ぜひご期待いただきたい。

(詳細は報道資料を参照)

## (4) テレビ70年へ始動 (林メディア総局長)

来年2023年は、テレビ放送70年という節目の年となる。NHKではさまざまな関連番組を制作し、70年の歴史を視聴者の皆様とともに振り返りたいと考えている。今日はその1つ、来年2月に放送するテレビ70年記念ドラマをご紹介する。「大河ドラマが生まれた日」だ。大河ドラマ第1作は、1963年の「花の生涯」だった。豪華な出演者、長期にわたる放送、現在の大河ドラマの基盤となる仕組みがここで生まれた。しかし、その誕生に至るまで、数々の困難、苦労、そして工夫があった。後に「大河ドラマ」と呼ばれることになった日曜の時代劇シリーズの創成期のエピソードをもとに、ドラマを制作する。実は2023年は「大河ドラマ60年」でもある。創成期の番組制作者の熱意を描く。これからのNHKの番組に対してもご期待いただければと思う。

(詳細は報道資料を参照)